


千代田区社会福祉協議会70周年記念誌

Chiyoda Council of Social Welfare

70th anniversary magazine



1952
|
2022



千代田区社会福祉協議会 創立70周年 会長挨拶

本会は昭和27年8月22日神田淡路町で活動を開始し、今年創立70周年を迎えました。これまでの長きにわたる活動を継続できたのは、ひとえに区民のみなさまをはじめ、千代田区にゆかりのある方々のご理解ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

この70年間で福祉を取り巻く状況は大きく変化をしております。特に最近では、人と人とのつながりが希薄化する中で、社会問題化している8050問題、ダブルケアやヤングケアラーの増加、ひきこもり、孤立死、子どもの貧困等、高齢、障がい、児童といった一つの分野では収まらない複合的、重層的な福祉課題が顕在化してきました。また、大規模災害や新型コロナウイルス感染症のパンデミック等、突然にして健康や日常生活が脅かされる事態も起きています。このような複雑多様な問題を解決するには、これまでの地域のつながりを大切にしながらも、新たなつながりや支え合いの仕組みを作り出し、様々な関係者と連携する必要があります。さらに、公的な制度だけでなく住民や民間団体のインフォーマルサービス、その他の様々な社会資源を組み合わせ、時には新たな社会資源を開発し、関係団体の調整を図りながら解決を進めるコーディネート役の存在が必要不可欠であり、地域福祉の重要性和社協の存在意義は増すばかりです。

本会は70年間の経験と実績をもとに、地域福祉の専門集団としてのスキル向上に努め、区民から信頼される存在として今後も一丸となって地域福祉の推進に取り組んでまいりますので、みなさまからの変わらぬご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会
会長 田邊恵三

千代田区社会福祉協議会70周年記念対談

千代田区における 新たな地域福祉のカタチ



モデレーター
町 亞聖

千代田区長
樋口 高顕

千代田区会議長
桜井 ただし

千代田区社会福祉協議会は2022年に創立70周年を迎えました。この記念すべき節目に際し、樋口高顕千代田区長、桜井ただし千代田区議会議員、地域福祉に詳しいフリーアナウンサーの町亞聖さんにお集まりいただき、千代田区の福祉と社会福祉協議会への期待などを語っていただきました。

「公共サービスに不可欠な 「ラストワンマイル」の発想

町 本日はよろしくお願ひします。私は高校3年の時に母の介護に直面し、ヤングケアラーになった経験があります。介護現場の取材や、社会福祉協議会の事業にご一緒させていただくことも多く、これからの地域社会、地域福祉を担うのが社協だと思っておりますが、今日はそのあたりもぜひ伺っていきたいと思います。まずは樋口区長、社協についてどのような印象をお持ちでしょうか。

樋口 多様な活動主体とのつながりがあり、参加型イベントを通じて地域を盛り上げることに長けているというのが社協のイメージです。また、私には小学生の子供がいるので、ちよだ社協のアキバ分室に子育て世代が立ち寄りやすいサロンがあり、シニアや独居の方も含めた多世代交流の場になっているのは興味深いですね。

町 桜井議長は生まれも育ちも千代田

区で、ちよだ社協の長い歴史もご存知だそうですね。

桜井 私が子供の頃は、年末になると社協や地域の福祉担当の方々がクリスマス会を開いてくれ、それがとても楽しみでした。昭和中期の社協の活動は、歳末たすけあいや赤い羽根共同募金、バザーなどが主でしたが、今はその頃とは組織も活動内容も様変わりしています。平成7年にいきいきプラザ一番町ができて、そこを拠点として高齢者へのフォローができるようになったのが、ひとつの転換期だったと思います。季節イベントを開いたり敬老の日のお祝いを届けたりと、町会の行事に社協が参加してくれるので、高齢者の皆さんが社協の方々の顔を覚えてくださっています。地域との密接なつながりをもっているのが社協の特徴かと思えます。

町 社協が顔の見える存在になっているのは素晴らしいですね。社協が発足した時代は日本全体がまだ若かったので、福祉といえば子供や障がいのある方への支援が主でしたが、今は高齢者への対応が増えていきます。高齢者にとって、役所に行くほどではないけど、ちよつとした支援や相談相手がほしいという要望に込めているのが社協ではないでしょうか。

樋口 おっしゃる通りです。私は区の職員と一緒に「ラストワンマイル」という問題意識で取り組んでいます。こ



これは通信業界や物流業界で使われてきた言葉で、消費者の手に荷物が届くまでの最後の、あと少しの区間を指しています。そこが大事だということでもあるし、そこがあと一歩足りないということでもあります。私どもの公共サービスにおいても、本当に必要な人に必要なサービスが届いているのだろうかという懸念があります。しかし、われわれ行政は窓口や出張所、区役所の中にいないといけない場合が多いので、なかなか現場に出て行く機会は相対的に少なくなっています。区民との間にまさにラストワンマイルの距離があるわけです。そのラストワンマイルを埋められるのが社協ではないかと思っています。

いま必要なのは「都市型の新しいつながり」

町 千代田区の場合、区民の9割がマンションや集合住宅に住んでいるという特徴があり、一方で、8050問題やヤングケアラーなど介護の課題もあります。そこで社協が果たすべき役割をどのようにお考えでしょうか。

樋口 区民福祉の向上、つまり区民が安全・安心に暮らせるまちづくりを目標とすれば、千代田区は支援センターや出張所のように身近な窓口が充実しているのがよい点です。それでもやはりラストワンマイルの問題意識を持つことが大切です。区内にマンションが増えたことで転入者が増加し、一時は4万人を切っていた区の人口が6万7千人にまで回復しました。その中で町会や商店街などの地域コミュニティをどうやって創っていくか、これは非常に大きな課題です。また3年も亘るコロナ禍の下で、孤独や孤立感を和らげることの大切さを痛感しています。そこで困っている方のところにお手伝いに行くような、出前型のアウトリーチの重要性が増しています。それを可能にするのが、住民の相談ごとや困りごとをすくいあげ、地域福祉活動の推進役となる社協ではないかと思っています。

町 人口が増えたぶん、その人たちを支援する仕掛けも必要になるということですね。桜井議長はいかがでしょう。

桜井 そうしたサポートはやはり行政だけでは難しく、社協のように行政

とは別のアプローチによって、人やまちのつながりができていくのだと思います。新しく転入してきた人や、地域とのつながりが薄くなりがちなマンション住まいの人も含め、支援や見守りが必要な人たちをいかにして地域に結びつけるか。そこで日常的に町会福祉部と交流をもち、地域に入り込んで活動している社協の存在がカギになると期待しています。

町 千代田区にふさわしい「都市型の新しいつながり」を形づくっていく上で、社協が推進力になるということですね。

樋口 新しく転入してきた方々の中にも、社協の「ふたばサービス」という、住民参加型の助け合い家事支援サービスに登録したいという人がいます。電球の交換や病院や買い物付き添いなどをするささえあい活動です。千代田区にはそういう人的資源も、地域資源もあるのです。それらをつないでコーディネートできるのが社協ではないでしょうか。

社協に求められる地域資源と人的資源のコーディネート

町 コーディネートという言葉が出ましたけれど、国は縦割りではなく、高齢者、障がい者、子供へのサポートなどのすべてに横串を差して重層的に支援していく方針を2021年に打ち出

しています。8050問題やヤングケアラー問題にしても、そこだけの対策では解決しないのですね。そこでヤングケアラーのような、支援を必要としている人を見つけて行政につなげる、そのまさに「つなぐ」役割が必要です。



桜井 まったくその通りだと思います。社協のメンバーには、知識や知見の引き出しが豊富な専門職の方がいらっしゃる一方で、一面的な対応では解決できない問題にも解決の糸口が見つかるのではないかと思います。特にヤングケアラーは実態としては気づいて前からあったのに、当事者を見つけて支援する道筋がなかなかできません。しかしそれを社協という組織の視点で捉えれば、新しい支援の道筋が

できるのではないかと思うんです。
町 そうですね。ヤングケアラーや男性介護者は周囲に助けを求める前に、自分で何とかしなきゃと思いがちです。しかし、社協にはぜひそこに切り込んでほしい。一方で、社協がそうした活動を行うには、マンパワーも資金も必要です。行政の後押しがほしいところですが、樋口区長、いかがでしょうか。
樋口 社協の独自財源は限定的です。千代田区としては社協の役割を整理するとともに、今後の活動計画をまとめた上で、社協の活動を積極的に支援してまいります。同時に社協にも常に事業の効率化という観点から、内部努力をお願いしたいと思います。

**行政・社協・住民が
一体になって
安全・安心なまちづくりを**

町 地域福祉は社協が先頭に立つのではなく、地域の方たちの主体的な活動に寄り添ってやっていくのが本来のあり方だと思います。近年、町内会や自治会に加盟する人が少なくなっているのは残念ですが、その応援も社協にぜひお願いしたいところです。
桜井 そうですね。千代田区の多くの町会には「福祉部」があります。区民で何ができるのかを定期的に協議する場ができたのです。そのための情報を提供していただいたり、アドバイスを

をくださるのは社協の皆さんです。まちが抱える課題も社協の皆さんと共有し、一緒に課題解決に取り組んでいければいいですね。

町 社会福祉は空から降ってくるものではないですよ。まちづくりにしても、行政だけがまちをつくるのではなく、そこに住んでいる人たちが千代田区をどんなまちにしたいのか声をあげる必要があると思います。そのために行政と社協と住民が一体になってやっていくことが大切です。

樋口 おっしゃる通り、私もやはり区民の声が大事だと思っています。最近の言葉で「デザイン思考」と言うのですが、われわれが予めこうだろう、ああだろうと仮説を立てるのではなく、最初から区民と会話しながら共感やニーズを探し出し、サービスを

くっていくことが大事だと。社協の皆さんは区民の方々と日頃から接しておられるので、まちの雰囲気やシニアの潜在的な要望を把握しておられます。それを反映して区の施策を改善・アップデートしていきたいのです。ですから社協の方からも、こういうサービスが今求められていますよと、ぜひ声を上げていただきたいですね。

町 当事者の声を拾うのを社協に期待しているということですね。では最後に二人からちよだ社協に向けて、エールをお願いします。

桜井 ちよだ社協が創立70周年を迎えられたことに、区議会を代表してお祝いを申し上げます。これからも住み続けたい、住んでよかったと思える千代田区にするためにも、70周年を新たなスタートとして、これからの社協の活動が区民の安心に直結するよう、さらなる飛躍を期待し、議会として執行機関と協力し、応援してまいりたいと思います。

樋口 改めまして70周年おめでとうございます。ちよだ社協の発展に尽力されている田邊会長、歴代会長をはじめ、会員の皆様方のご活躍に対しまして、心から感謝を申し上げ、敬意を表させていただきます。また、素晴らしい活動をしておられる職員、ボランティア、お手伝いの皆様におかれましては、是非このやりがいと誇りのもてる仕事を今後とも続けていただきたいと思います。

います。区民福祉の向上、安全で安心な暮らしに直接つながることですので、今後ともよろしくお願いいたします。
町 お二人とも、本日はありがとうございます。



区長プロフィール
 趣味:読書、茶道、ジョギング
 好きな果物:みかん

議長プロフィール
 趣味:大工仕事
 好きな果物:梨



町 亞聖プロフィール

1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、報道キャスター、厚生労働省担当記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。2011年にフリーに転身。脳障がいのため車

椅子の生活を送っていた母と過ごした10年の日々、そして母と父をがんで亡くした経験をまとめた著書「十年介護」を小学館文庫から出版。医療と介護を生涯のテーマに取材、啓発活動が続ける。

千代田区社会福祉協議会 70年のあゆみ

1952・8

千代田区社会福祉協議会創立

任意団体として千代田区福祉事務所内(神田淡路町2-9)に
千代田区社会福祉協議会創立(会長に田中覚造氏選任)

1952・12

歳末たすけあい運動開始

(現、「歳末地域たすけあい募金」)

1955・8

世帯更正資金貸付事業を東社協より受託

(現、「生活福祉資金貸付事業」)

1962・11

厚生大臣より認可を受け
社会福祉法人

千代田区社会福祉協議会となる

1970・4

事務局を移転

旧千代田区役所内へ(九段南1-6-11)



旧千代田区役所



1962年 法人設立発表会



歳末たすけあい運動で
奉仕する婦人会

1950

1951
社会福祉事業法施行

1960

1961
国民皆保険・皆年金の実施

1964

東京オリンピック開催
東海道新幹線開通

1970 1980

1986

チエルノブイリ原発事故

1989

消費税の導入

1990

◆ 上段：ちよだ社協のあゆみ

◆ 中段：社会の出来事

◆ 下段：写真で振り返る千代田区



1964 聖火リレー



1957 クリスマス会の様子

1995・7

いきいきプラザ一番町事業
受託運営開始（～2006年3月）

いきいきプラザ一番町内に

ちよだボランティアセンター開所

1996・1

住民参加型有償家事援助サービス「ふたばサービス」開始



ふたばサービス通院介助の様子

1996・10

小地域福祉ネットワーク活動モデル事業開始
（現、「こ近所福祉活動」）

1999・4

千代田区立高齢者センター運営受託（～2015年12月）

2001・3

西神田併設庁舎（西神田1-3-4）に
事務局及びボランティアセンター移転

2001・4

西神田高齢者在宅サービスセンター開所（～2012年3月）

2002・7

ちよだ福祉サービス利用援助センター開設
（現、「ちよだ成年後見センター」）

2003・11

はあとフェスタ・障がい者の日記念のつどい・
いきいきプラザまつりを統合して

「第1回福祉まつり」開催（共催：千代田区）

2004・1

千代田区と「災害時における
ボランティア活動等に関する協定」を締結

2000

1995

阪神・淡路大震災発生
様々なボランティア活動が展開



2000

社会福祉基礎構造改革
介護保険制度開始
成年後見制度施行

2001

アメリカ合衆国で同時多発テロ発生



2003 天下祭



1991 神田古本まつり



1981 駅伝（皇居前）

2006・4

介護保険サポーター・ポイント制度事業受託

2008・4

区内3か所に職員常駐型サロン「はあとサロン」開室

2008・12

NPO法人国際ボランティア学生協会と「ちよだ災害ボランティアセンター」への協力に関する協定」を締結

2011・4

「ちよだ災害ボランティアセンター」開設（～6月）

東日本大震災による福島第一原発からの避難者に対する支援のため旧赤坂プリンスホテル内に開設

2012・4

千代田区ファミリー・サポート・センター事業受託



千代田区ファミリー・サポート・センター
会員同士の事前の打合せ



災害ボランティアセンター
大学生と岩手県大槌町で災害ボランティア活動

2010

2008

リーマンショックによる世界規模の金融危機

2011

東日本大震災発生



改正介護保険法公布

地域包括ケアシステムの視点を明示

障害者虐待防止法公布

2012

障害者総合支援法公布

認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）公表

2013

生活困窮者自立支援法公布

子どもの貧困対策法公布

障害者差別解消法公布

改正障害者雇用促進法公布



2011 納涼の夕べ



2011 花と庁舎



2006 打ち水による温暖化対策

2015・11

千代田区立高齢者総合サポートセンター
「かがやきプラザ」(九段南1-6-10)に事務局を移転



第10回 福祉まつり
はあとステージで歌う千代田区の杜少年少女合唱団

2016・1

高齢者総合サポートセンターの高齢者活動拠点、
多世代交流拠点、人材育成・研修拠点を受託
(指定管理)し、高齢者活動センター事業、
多世代交流事業、研修センター事業開始

2020・4

万世橋出張所内に千代田区社会福祉協議会
「アキバ分室」開室

2014

日本人3人がノーベル物理学賞を受賞
国際連合「障害者権利条約」に批准

2015

マイナンバー制度開始
認知症施策推進総合戦略
(新オレンジプラン)公表

改正介護保険法公布

予防給付サービスの介護予防・
日常生活支援総合事業地への移行開始

2016

熊本地震発生
改正社会福祉法公布

2018

大阪北部地震、西日本豪雨発生

2019

消費税が10%に増税

台風15号、19号による全国的な水害の発生

2020

新型コロナウイルス感染症が世界で蔓延

2021

1年延期で東京オリンピック開催
(無観客開催)



2019 神田祭



2018 山王祭 神幸祭

わたしたち、こんなことしてます！



▲ 区民後見活動中の様子

vol 1 奥津 純世さん

担当部署▼ちよだ成年後見センター
事業▼区民後見人

●フルタイムで働いていても大丈夫

仕事の関係で平日休みとなり、普段できないことをやってみようと思い、ボランティア活動を始めました。千代田区に引っ越してきた際にも、何か地域と関わりたいと考えて区民後見人の活動を始めました。フルタイムで働いていると活動できないのではと思われるがちですが、活動に対して社協からのサポートがあるので大丈夫です。

●やりがいの大きな活動

区報でちよだ社協の存在は知っていましたが、積極的に関わることになったのは、甥・姪の誕生を機に、直接的な援助はできなくとも、知識を蓄えて何か貢献できればと思い立ち、ファミサポの支援会員講座へ参加したのがきっかけでした。ファミサポの講座に参加する為に社協を訪れていた際に区民後見人の存在を知りました。

区民後見人は、身内に頼れる方がいない人をサポートする重要な役割を担います。時間の調整は比較的しやすく、また今までのボランティア経験が活かされる活動です。



支援対象の方が、面会時の短期記憶は覚えていなくても、長期記憶（ご家族のことや戦時中の話しなど）は明確に記憶しているケースがありました。会う回数が増えるにつれ、ご本人から話し始めてくれると、時間が許す限り話を聞いて差し上げ、ご本人の想いに寄り添えればと考えます。活動の中で支援対象の方の生き様にリスペクトを感じることも多々あります。

●「人のため」が「自分のため」にもなる

行政サービスは、自ら関わろうとしない限り知らない事ばかりです。「こんな便利な制度があるのか」「こんな困り事は、この部署に相談すれば良いのか」といった情報を知ることができる点は有意義だと感じます。人のための活動ではありますが、最終的には自分のためになることも多くとても魅力的です。区民後見人は、ハードルが高いイメージがあるかもしれませんが、ちよだ社協や専門家など相談相手がいる中で活動なので、安心して取り組みます。

vol 2

中田 弾さん

担当部署▼ちよだボランティアセンター
事業▼ボランティア事業全般



●子どもたちと関われるボランティア

私は大学で建築学科に通っており、子どもや障がい者、高齢者のための空間や建築を専門に学ぼうと福祉工学の分野に興味を持ちました。大学で研究などを進めていく中で、先生から「福祉の建築は、当事者としてしっかり話さないと形にならない」とアドバイスをいただきました。特に子どもたちを対象とする建築物に関心があったため、ボランティア活動を通じて子どもたちの生の声を聞ける事に魅力を感じ、ちよだ社協に通い始めました。

●地域の方々と繋がりやすい

ちよだ社協で活動する中で、子どもたちの活動をきっかけに地域のお祭りの手伝いをする、地域の方々と関わる機会も増えていきました。きっかけはボランティア活動でしたが、いろいろな方々との繋がりができたことが大きいと感じました。老若男女問わず「こんなことも手伝ってよ」「こんなところで困っているんだよ」などお声をいただく機会が増

え、同じ地域で一緒に活動する人の輪が広がっていくのが実感できました。

●人の温かみを感じ豊になれる体験

ちよだ社協でのボランティア活動を通じて、地域の方の生活をより豊かにするための仕事ができないかと思うようになり、障がい児のための学童クラブ、いわゆる放課後等デイサービスをつくることができたら……そう考えるようになりました。そうした施設があることで、生活に困っている方々が子育てしながら千代田区で生活し続けてみようと思ってくれたら本望です。

私は、ちよだ社協での活動をしていないけれど、今の自分はないとさえ思っています。ボランティアを通じて温かみを感じ、人のために何ができるのか考えるきっかけも得ました。若い世代の方には特に、ボランティアをきっかけに人生そのものが豊かになる貴重な体験をしていただきたいですね。

vol 3

枝光 由希恵さん

担当部署▼地域支援係
事業▼ふたばサービス



●週5日自分のペースで活動

参加当初は子ども中心の生活だったため週1回・1日1〜2時間からスタート。その後、生活スタイルの変化に応じて徐々に活動日を増やしていったので、自分の時間も作りやすかったです。私の主な支援内容は、簡単な調理、通院付き添い、お掃除など家事全般です。高度な技術を求められることもないので、無理なくできています。

私たち夫婦が結婚を機に千代田区へ転入してきた際、子育て支援サービスを調べている時にふたばサービスの存在を知りました。当時、遠方に住んでいる両親の面倒は姉夫婦が見ており、私はなかなか手伝えませんでした。そんな両親を想いつつ、同世代の依頼会員さんに寄り添い、ここでの活動を行っています。

●感謝の言葉が自信に

「ありがとう」「助かった」などの感謝の言葉はもちろん嬉しいですが、「あなたは何でもできるのね」というお褒めの言葉が印象に残っています。人

に評価してもらえると自信にもつながり、勇気づけられます。「お互いの助け合いで成り立っている」というふたばサービスの目的を実感する瞬間でした。

●未経験者でも安心

最初は、「自分にできるのかな？」と不安もありましたが、最初のマッチングから活動のフォローまで、職員さんがサポートしてくれるので安心して活動できました。ふたばサービスにおける支援活動は、未経験の方でも参加できるのが魅力だと感じます。



▲家事支援活動中の様子

担当部署▼援護係
事業▼車いすステーション

●都心なのに人が温かい千代田

千代田区に越して来て2年、入居するビルの下見時に不動産会社から「この地域はお祭りが盛んなので、地域行事にも貢献していただく機会が多いと思いますよ」と言われたのがとても印象的でした。古いものと新しいもの、いい感じに混ざり合っている町民文化を肌で感じることができ、お店が活気づいているところも気に入っています。一般的に都心のオフィスビル街では、ご近所付き合いなどないイメージでしたが、ここ千代田では、新入り企業も温かく迎え入れてくれる風土があります。地域住民の方々も関わり合いを望んでくれ、私たちも地元を持ちたいという心持ちで移転してきたのでうれしく思いました。今後イベント等を通じて、地域に根差した活動に参加することがきつかけとなり、社内の団結力を高めることにつながることにも期待しています。

●車いすステーションを知ったきっかけ

車いすを通じて地域貢献できることを知ったのは、社協職員の方からのメールがきっかけでした。もともと地域貢献には関心をもっていましたが、福祉の分野で自分たちがどれくらい関わられるのかわからないのに、「できます！」と宣言するには少々不安があ

りました。そんなタイミングで「こういう取り組みがありますが、いかがでしょうか？」というお声掛けをいただきました。車いすステーションを通じて、その第一歩が踏み出したことは、改めてうれしく感じています。

●地域に存在感をさりげなくアピール

地域に貢献する活動を通じて、自然な形で企業の自己紹介や存在感をアピールできる点が良いと思います。問合せ等は社協がしっかりサポートしてくれるので、大きな負担はなく始められる活動です。地域活動を考えている企業は、まずはできることから参加してみると良いのではないのでしょうか。新型コロナウイルスの不安が解消され落ち着いてきたら、今以上に地域活動へ積極的に参加していきたいという気持ちでいます。



▲ 当会職員と地域行事に参加している時の様子

●地域活動に参加したきっかけ

柳原さん・黒田さん 社協の窓口でお誘いを受けました。

市原さん 北の丸公園で犬の散歩中に「やってみない？」と声をかけられました(笑)。

中村さん 僕は兄の代わりに町会の新年会に参加した時、消防団に誘われて入団したのが始まりです。

柳さん 私は千代田区に引越して来た際、友達が欲しくてボランティア参加したのがはじまりです。

●印象に残ったエピソード

柳原さん・市原さん・黒田さん 企画について話し合い、徐々に出来上がっていく過程がとても楽しいですね。参加者から「楽しかったあ」の声が聞けると、とてもやりがいを感じます。プラモデル作りのイベントでは、対象年齢が「6歳以下」であるはずなのに、実際に作ってみると四苦八苦してしまいま

したね(笑)。参加メンバー全員で、「もう少し、こうした方がいいかも！」などと話し合っただけで、とても充実感がいっぱいです。

●社協での活動の魅力と一言

柳さん 出会いもあれば勉強することも多くて、自分の世界が広がるところが良いです。子供たちが喜んでくれる顔を見ていると、本当にうれしくなります。

中村さん 子供から大人まで、いろんな世代が関わり交流できることが素晴らしいと思います。みんなが居心地良さそうに過ごしている様子がうれしいですね。

柳原さん 新型コロナウイルスの感染が広がってからは、地域住民のつながりが希薄になりました。皆さんが外に出る良いきっかけが作れるよう、さまざまな企画に取り組んで行きたいです。社協には、ゼロからイチを作りあげる楽しさがあります。ぜひ私たちと一緒に千代田区を盛り上げていきましょう。

市原さん 若い人たちの知恵も借りながら、一緒により良いものを作り上げていく喜びがあります。

黒田さん 他区の事例等も活動の参考にして情報共有しながら、地域活動を盛り上げていきたいです。皆さんも是非、企画運営サポーターとして活動してみませんか。



▲ 左から柳原さん、市原さん、黒田さん



▲ 中村さん、柳さん

佐治悠生さん、関小百合さん、
松下耕大さん、小川咲喜さん

● ボランティアに関心ある学生がイキイキとする場

佐治さん NPO法人国際ボランティア学生協会 I V U S A は、全国の学生が参加している組織で国際協力・環境保護・子供教育支援・地域活性化・災害救助の5つの分野で活動しています。クラブという地域ごとの支部があり、私たちは市ヶ谷クラブに所属しています。

関さん 今年の市ヶ谷クラブの活動は、4月に千代田区の清掃活動、5月6月に社協と連携したスマホ相談会を行いました。また、同じ学生ネットの I V U S A 三崎町と明治大学のツリーと3団体合同で、子供の教育支援活動を8月にスタートし、今後も定期的に主催する予定です。

松下さん 夏休みの宿題を進める会で感じたのは、子供たちの居場所が千代田区のどこかにあり、大人とも継続的に関われる機会が作れると良いと思えました。子供から保護者、高齢者まで、日常生活のプラスになるような活動ができればと考えています。

小川さん 福祉まつりのボランティアメンバーで打ち合わせを行っています。社協は私たち大学生の意見をとても尊重してくれます。福祉まつりに限らず、千代田区の子供たちに対してできることをテーマに考えているので、今後も社協との関わりを楽しみにしています。

担当部署▼高齢者活動センター
事業▼多世代交流Ciao!

関さん 私は社協と数多く関わりを持たせてもらっていますが、ちよだ社協は人と人とのつながりを、とても大切にされている印象があります。困ったことがあれば相談に乗ってくれますし、活動に向けた不安要素は取り除いてくれるので、学生の活動意欲をかきたててくれる点もありがたいですね。

松山さん 学生にとってボランティアはとても身近ではありますが、活動を目にするのはあっても参加するとなるとハードルが高くなり、なかなか踏み込むことができません。少しでも興味や関心があれば、すぐに始められる雰囲気は社協にはあると感じます。

佐治さん ボランティアのイメージは、「何かをしてあげる」とは「困っている人を助ける」などと思われがちですが、実はそうした経験を積む中で自分自身がレベルアップするきっかけにもなっています。自分のためにも、一歩踏み出してみるのも良いと思います。



▲ 防災学校参加時の様子

ワテラス学生ボランティア

福井菜紗さん、秋月孝太さん

担当部署▼アキバ分室
事業▼アキバみんなのサロン

● 地域に貢献するボランティア活動

秋月さん 新型コロナウイルスの影響でこの2年くらいは活動が減りましたが、私は週に1回のペースで活動しています。小中学校時代は、お祭りや地域の活動にはなかなか参加できませんでした。大学生になり一人暮らしをはじめたタイミングで、地域のボランティア活動に参加してみようと思いました。

福井さん 私は夜間の専門学校に通っていますので、時間がある時は月に3〜4回活動しています。児童・家庭支援センターと連携して、学童児童の預かりや障がい者施設内での活動に携わっています。高校時代は地域の方々と連携して、若者と高齢者がつながる機会を作るための活動をしていました。体育祭では地域の方を招待するといった試みもしました。

● 世代を超えて地域の方と交流できる
福井さん アキバみんなのサロンでは、千代田区について、さまざまな話を聞くことができとても勉強になります。コロナ禍であっても、人との交流を通じて、自分たちの活動について想像力が広がっていく楽しさを感じています。

秋月さん 私も地域の方との交流に魅力を感じています。私たち20代が親族以外で、人生経験が豊富なご年配の方々のお話を聞けるのは貴重な体験です。
福井さん コロナ前までは、お祭りや町会と共催で1つのブースを設けて、学生が考えたワークショップなども行っていました。地域についてもっと知りたいと思う人にとっては、気軽にボランティアに参加することで、きっと新しい世界が広がると思います。

秋月さん 昨年は、淡路町二丁目町会で高齢者向けスマホサロンを開催しました。「自分にできるかな？」と不安に感じることもありましたが、いざ活動してみると、想像していた以上に楽しく活動できました。アットホームな雰囲気こそあって、来年の5月には神田祭もあるので、私たち2人ともボランティア活動できることを今からとても楽しみにしています。



▲ 左から福井さん、秋月さん

未来への メッセージ

ちよだ社協と
深く関わりのある方より、
メッセージをいただきました！

ジロール麹町

鈴木裕太さん、柴山延子さん
障がい者福祉センターえみふる
の場康芳さん

● 現在のお仕事や活動について

的場さん 私は4年半知的障がい者の入所施設で働いた後、えみふる開設のタイミングで異動し14年目です。理系の出身ではありますが、「福祉サービスの広がりや可能性」に興味をわき、この世界へ飛び込みました。現在は施設長を務めさせていただいています。えみふるは、千代田区で唯一多機能型の施設で全障がい者を対象としていて、情報発信を含め千代田区に新しい資源を生み出さなければならぬと使命感を持っています。

鈴木さん 私が開設に携わったジロール麹町・きのこカフェは、6年前に「認知症カフェ」としてスタートしました。全国の福祉作業所や就労支援事業所で手づくりされたものをカフェ内で提供しています。日曜以外は毎日営業しており、地域の皆さまが気軽に立ち寄れ

る場となっております。また、介護スタッフが運営しているので、必要に応じて相談することもできます。将来的には、若年性認知症の方などが働けるような支援もできたら良いと考えています。

柴山さん 長らく他業種で仕事をしていたのですが、介護保険を払う頃から福祉について関心をもち、きのこカフェの運営に携わるようになりました。また、認知症の当事者が発信

「千代田区に住んでいて良かったな」と
実感される方が増えるとうれしいです。

● 社会福祉法人との連携や社協に期待すること

し、これまでのイメージを変えてくことに共感し活動しており、ちよだ認知症ケア講座の企画や、千代田区が主催する認知症本人ミーティング「実桜（みお）の会」にスタッフとして参加しています。皆さんの声を、様々な場へ届けていくことの大切さを日々感じています。



▲ ジロール麹町きのこカフェにて 左から鈴木さん、柴山さん、的場さん

的場さん 障がいのあるなしに関わらず、高齢者から児童までが交流を持てる場があることが、地域共生社会の目指すところだと思います。3年前くらいから地域に目を向け始めて、社協と関わりを持ち始めました。最初は企業の紹介やボランティアの受入れなどでつながりを持ちましたが、一緒に研修を行うなど密に連携する機会が増えてきました。これからも社会福祉法人同士で、分野を問わず連携し、一緒に千代田区を盛り上げていきたいですね。

鈴木さん・柴山さん きのこカフェには世代を超えた様々な相談も寄せられています。これまで、認知症ケア講座や福祉まつり等イベント参加を通じて社協と関わりをもっていました。それが、それ以外にも声をかけて頂く機会が増えたとありがたいです。「千代田区に住んでいて良かったな」と実感される方が増えるとうれしいです。1番大切なことは人と人とのつながりだと思っているので、社協がハブの役割を担えればいろいろと動きやすくなります。町会とのつながりも深く、地域の核となってもらう事で、私たちが専門分野として生かせることも沢山あります。そうして、より良い地域づくりにつなげてほしいと思います。そのためには、制度の枠にとらわれない情報のやりとりができるようになるのであれば、連携もより取りやすくなるのではないのでしょうか。

千代田区児童・家庭支援センター

能美実香さん

●子育てに関する何でも相談

児童・家庭支援センターには、子ども家庭相談係、発達支援係、子育て事業係の3つの係があります。子ども家庭相談係では、子育てに関する相談に乗っています。例えば「育児疲れでイライラしたときどうしたらよいか?」「夜泣きする赤ちゃんへの対処法は?」など、日々様々な相談をいただいています。また、虐待の通報があった場合は、区内の児童虐待に関する対応も行い、親御さんと面接しながら子どもにとって安全な生活を一緒に考えていく活動もします。

●地域住民の孤立感を解消するサポートを

相談内容はさまざまですが、「現代の親御さんたちはすごく孤立している」印象です。近くに頼れる親や親戚もなく、近所付き合いもないケースが珍



▲インタビュー中の様子



▲神田さくら館前にて

しくありません。そんな中、子どもとどう向き合ったら良いかなど、息苦しさを感しながら生活している親御さんが少なくありません。子どもたちは、親以外の大人と接する機会が減ってしまい不適切な事案が発生してしまう状況があります。

コロナ禍では一時期、学校や塾の対面授業もなくなり、児童館も閉鎖してしまうなど、子どもたちが人と触れ合いながら成長していく機会が失われています。ある大学生ボランティアが、「高校3年間がほとんどリモートだったので、大学に入ってやっと本来の生活に戻りつつありますが、高校時代に人と触れあう機会がなかった分すごく戸惑います」という話を聞き、人と関わることの重要性を改めて実感しました。

●情報交換できる環境に期待

児童館と社協の子育てサロンとが、もつと自由に連携できると可能性が広がると思います。児童館しか知らない層と、子育てサロンしか知らない層が気軽に情報交換できれば、行き来も活発になり身近に感じるのではないのでしょうか。

また、外出が苦手な親御さん向けには、お家時間の中でも人と聞かれる仕組みづくりをしていければ良いと思います。社協は地域住民に近い活動をされているので、連携は大きな力になると期待しています。

町会長、民生委員・児童委員

斎藤光治さん

●民生委員として、町会長として

私は約20年前から民生委員していますが、その頃から社協と関わるようになりました。民生委員の活動は、地域住民から寄せられるさまざまな相談にのり、適切な機関に話をつないでいます。その後、上手くいくか見守り、フォローまで行いますが、大事なことは、「困った人はいないか」「その人たちのために何かできることはないか」をイメージする方だと思っています。ただ、民生委員の存在については、まだまだ認知が足りていないとは感じています。

また、町会長としては約13年前から活動しています。町会活動は、昼間も夜も地域にいる方が中心ですが、そのような取り組みをすると、後から町に来た人たちにも自らの意思で積極的



▲インタビュー中の様子



▲ご自宅前にて

に参加してもらえるのか疑問に感じることもあります。特に若い世代の人たちに関心を持ってもらうなど、地域の活動に参加してもらおうにはハードルが高いと思っています。なかなか悩みは尽きません。とはいえ、地元出身以外の住民の方々や若い方々が、地域活動に参加するきっかけが訪れた時に、スムーズに迎え入れられるような環境を作っていきたいと考えています。

●社協と一緒に良い町づくりを

究極の良い社会とは、社協や民生委員が必要とされない世界だと思っています。まちの変化、家族の暮らし方、生き方の変化が社会にはありますが、それにどこまで立ち入ってやっっていくかというのは永遠の課題です。地域住民が趣味や興味などをきっかけに自然に集まってくるような町が理想で、そのためには民生委員として

町会長としても、他地区との連携も含めて、もつと情報共有や行き来が自由にできる環境を整えていきたいと考えています。これからも地域の一員として、社協と一緒に良い町づくりをイメージして活動していきたいですね。

1

千代田区社会福祉協議会 賛助会員

個人会員：478名

団体会員：232団体

※法人含む

ちよだ社協の活動に賛同し、ご入会いただいた地域の皆様、団体及び企業の皆様をちよだ社協の賛助会員とさせていただきます。



ちよだ社協

データで見る

※令和3年度データより

2

ご近所福祉活動 福祉部設置町会：66町会

町会内に福祉部設置を促し、地域でのつながりづくりを支援しています。



千代田区データ

人口：67,276人
うち60歳以上：14,272人
(21.21%)

※令和4年4月1日時点

4

ちよだ
ボランティアセンター

活動件数：4,146件

登録ボランティア
グループ数：157団体

相談件数：931件

ちよだボランティアセンターでは、ボランティア活動をしたい人、ボランティアを必要とする人や施設等からの相談を受け、必要に応じてコーディネートをしています。



3

サロン活動

はあとサロン：4ヶ所

(職員常駐型)

ふれあいサロン：29ヶ所

(ボランティア運営型)

地域の方々の生きがい、交流の場であるサロン運営と居場所づくりを支援しています。



5 ちよだ成年後見センター

権利擁護に関する相談対応件数：**18,632 件**

※このうち成年後見利用相談件数：**111 件**

法人後見：**6 件** 法人後見監督：**10 件**

地域生活支援員登録者数：**32 名**

※このうち区民後見候補者：**24 名** 区民後見受任者：**9 名**

ちよだ成年後見センターは、区内にお住まいの高齢の方・障がいのある方々が、住み慣れた地域でいつまでも安心して生活ができるように、さまざまな相談・援助を行っています。

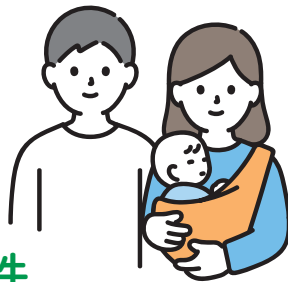


7 ファミリー・サポート・センター

依頼会員：**816 人**

支援会員：**243 人**

活動件数：**5,237 件**



子育てのお手伝いをしてほしい方（依頼会員）としてくれる方（支援会員）で構成される会員組織で、児童が健やかに成長できる子育ての環境をつくることを目的としています。

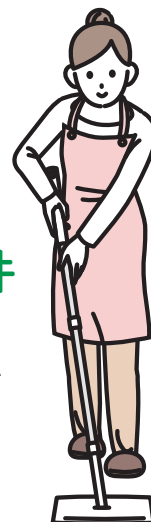
6 住民参加のたすけあい家事支援サービス ふたばサービス

依頼会員：**272 人**

支援会員：**308 人**

活動件数：**4,219 件**
(のべ)

地域の皆様の協力を得て、支援を必要とする方に対し家事援助等のサービスを提供する、住民参加のたすけあい家事支援サービスです。



9 高齢者活動センター

年間参加者：**31,836 人**

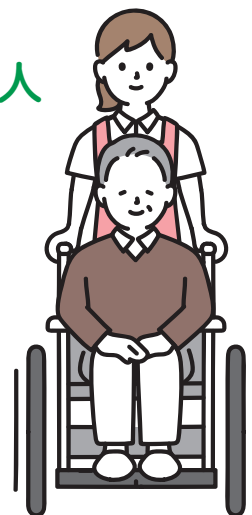
高齢者がいきいきと元気で暮らしを楽しめるよう、社会参加、フレイル予防等の場を提供し、仲間づくり、生きがいづくり、健康づくりを支援しています。



8 研修センター

年間参加者：**1,888 人**

介護・福祉従事者のスキルアップ研修や介護職の就職支援、ボランティアの養成、区民向け福祉講座等を通じて、高齢者の在宅生活継続等を支援する人材を養成します。



千代田区社会福祉協議会が目指すもの

活動理念 (Mission) に基づく 3つの目標 (Vision) と 8つの指針 (Way)

活動理念 (Mission)

みんなが参加し、ささえ合うまちづくり

活動目標 (Vision)

1. 公的な制度だけでは対応できない複雑多様な生活上の問題を解決するために、地域の社会資源の活用、多様な団体との協働、新たな仕組みづくりを行い、誰も取り残さない地域社会づくりに取り組みます。
2. 日常生活圏における住民主体の福祉活動の立ち上げや支援、福祉団体、ボランティア・NPO等の多様な社会資源との関係づくりやネットワーク化を行い、インフォーマルなサービスを創出します。
3. サービスの受け手と支え手という関係を越え、あらゆる人たちが社会参加できる機会を作り、誰もが生きがいを持って生活できる地域共生社会の実現を目指します。

活動指針 (Way)

1. アウトリーチを中心とした調査と地域との信頼関係に基づく情報収集により、地域の福祉課題を把握するとともに、社会資源を発掘し、多様な機関との関係づくりを行います。
2. 支援を必要とする人と支援ができる人とを結びつけます。
3. フォーマルサービスやインフォーマルサービスを適切に組み合わせ、必要な支援を調整します。
4. 多様な機関が集まる場を設け、課題解決のための情報共有やケース検討を行います。
5. 既存のサービスだけでは対応できない課題に対し、住み、働き、学ぶ広範な区民の主体的な活動を活性化することにより、新たなサービスや支援の仕組みを創出します。
6. 広範な区民に対して、地域や福祉について関心を持つ機会を提供することで、地域の福祉課題に気づき、地域の活動に参加し、主体的に行動しようという人を増やします。
7. 過剰な情報の中から必要な情報を選択できるよう支援するとともに、意思決定を尊重し、その権利を擁護します。
8. これらを達成するために、地域福祉推進のための体制を整備し、コミュニティソーシャルワークを実践します。

70周年を機に、記念ロゴを制作

▶ モチーフの意味

丸

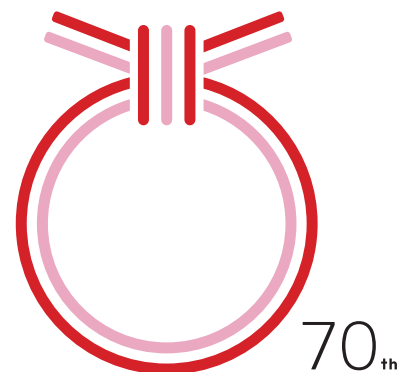
ご縁、地域、
コミュニティ、社会

2本線

人と人、寄り添う、ご縁、
支え合う、出会い

結び目

つなぐ、結ぶ、包む



千代田区社会福祉協議会

Chiyoda Council of Social Welfare

千代田区社会福祉協議会 歴代会長



初代
田中覚造



2代目
大島義愛



3代目
西郷之厚



4代目
米山卓



5代目
南山金太郎



6代目
前田又兵衛



7代目
大塚実

千代田区社会福祉協議会のお問合せ先一覧

▶ 千代田区社会福祉協議会

代表

TEL:03-3265-1901 FAX:03-3265-1902

E-mail:info@chiyoda-cosw.jp

〒102-0074

千代田区九段南1-6-10 かがやきプラザ4階

▶ ふたばサービス

TEL:03-6265-6520

E-mail:futaba@chiyoda-cosw.jp

▶ ちよだ成年後見センター

TEL:03-6265-6521

E-mail:kouken@chiyoda-cosw.jp

▶ ちよだボランティアセンター

TEL:03-6265-6522

E-mail:volunteer@chiyoda-cosw.jp

▶ ファミリー・サポート・センター

TEL:03-6265-6523

E-mail:famisapo@chiyoda-cosw.jp

▶ 指定管理受託施設/かがやきプラザ

高齢者活動センター

TEL:03-3265-1161 FAX:03-3265-1162

E-mail:kagayaki@chiyoda-cosw.jp

▶ ちよだ多世代交流Ciao!

TEL:03-6265-6563

E-mail:ciao@chiyoda-cosw.jp

▶ 研修センター

TEL:03-6265-6560

E-mail:jinzai@chiyoda-cosw.jp

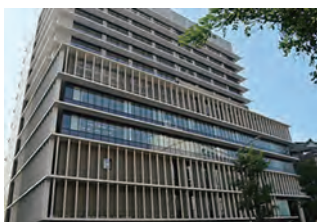
▶ アキバ分室

TEL:03-6285-2860 FAX:03-6285-2861

E-mail:akiba@chiyoda-cosw.jp

〒101-0021

千代田区外神田1-1-13 万世橋出張所6階



社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会 70周年記念誌

発行年月:令和4年11月

発行元:社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-10 千代田区立高齢者総合サポートセンター(愛称:かがやきプラザ)4階

TEL 03-3265-1901 FAX 03-3265-1902 ホームページ <https://www.chiyoda-cosw.jp/>

制作:株式会社STORY



